

## EU



## 1 農・畜産業の概況

EUは、加盟国（2014年時点28カ国）全体で国土全体の約40%となる1億7435万ヘクタールの農用地面積を有し、農業経営体数は1084万戸、1戸当たり農用地面積は16.1ヘクタールである（表1）。2013年のGDPに農林水産業が占める割合は前年並みの1.5%であった。

2014年の農業生産額は、4150億5500万ユーロ

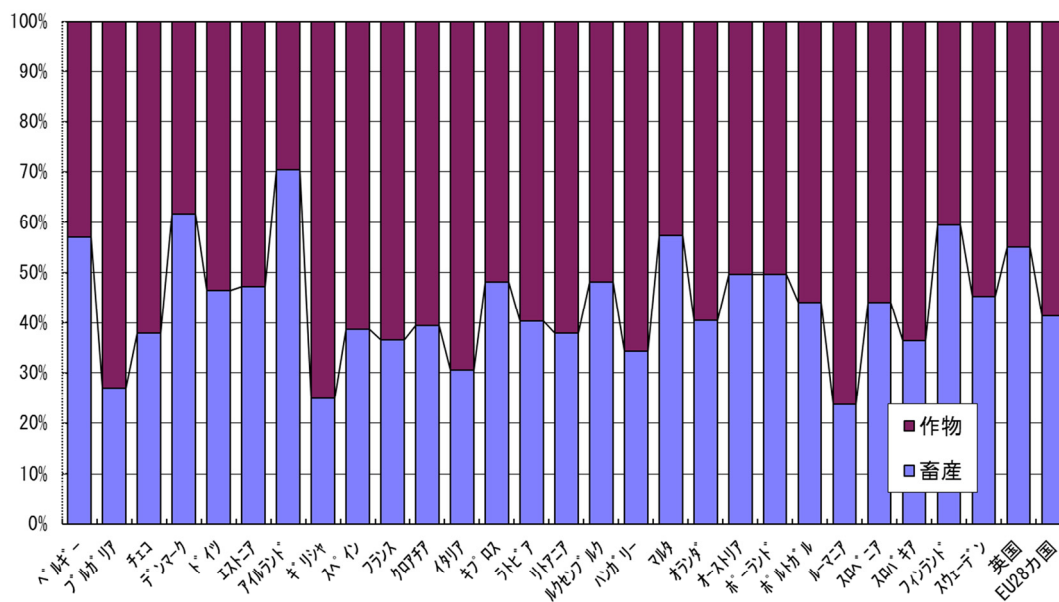
と前年を1.5%上回った。このうち、約4割に相当する1715億3800万ユーロを畜産が占めており、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が616億8209万ユーロ（農業全体の約15%）、牛肉・子牛肉が331億4734万ユーロ（同約8%）、豚肉が348億5904万ユーロ（同約8%）、卵・家きんが299億538万ユーロ（同約7%）である。

表1 主要農業経済指標

国名／区分	農用地面積	農業労働人口	農業経営体数	1戸当たり 農用地面積	農業生産額
	(千ヘクタール)	(千人)	(千戸)	(ヘクタール)	(百万ユーロ)
	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年
ベルギー	1,307.9	56.7	37.8	34.6	8,045.3
ブルガリア	4,650.9	320.2	254.4	18.3	4,159.3
チェコ	3,491.5	105.1	26.3	132.8	4,936.4
デンマーク	2,619.3	54.5	38.8	67.5	11,009.6
ドイツ	16,699.6	522.7	285.0	58.6	57,637.0
エストニア	957.5	22.1	19.2	49.9	896.3
アイルランド	4,959.5	163.7	139.6	35.5	7,367.0
ギリシャ	4,856.8	463.9	709.5	6.8	10,394.4
スペイン	23,300.2	813.6	965.0	24.1	42,116.0
フランス	27,739.4	724.7	472.2	58.7	73,994.3
クロアチア	1,571.2	175.1	157.5	10.0	2,008.5
イタリア	12,098.9	816.9	1,010.3	12.0	53,793.9
キプロス	109.3	16.6	35.4	3.1	694.2
ラトビア	1,877.7	82.1	81.8	23.0	1,216.7
リトアニア	2,861.3	144.8	171.8	16.7	2,575.6
ルクセンブルク	131.0	3.5	2.1	62.4	447.9
ハンガリー	4,656.5	433.7	491.3	9.5	7,812.3
マルタ	10.9	4.5	9.4	1.2	124.1
オランダ	1,847.6	153.3	67.5	27.4	27,134.9
オーストリア	2,726.9	111.2	140.4	19.4	6,951.2
ポーランド	14,409.9	1,918.6	1,429.0	10.1	22,730.5
ポルトガル	3,641.6	323.5	264.4	13.8	6,526.5
ルーマニア	13,055.9	1,552.6	3,629.7	3.6	16,770.8
スロベニア	485.8	82.5	72.4	6.7	1,249.5
スロバキア	1,901.6	50.6	23.6	80.6	2,385.9
フィンランド	2,257.6	27.4	54.4	41.5	4,197.6
スウェーデン	3,028.6	31.1	67.2	45.1	6,201.4
英国	17,096.2	170.2	185.2	92.3	31,678.4
EU28カ国	174,351.0	9,345.0	10,841.0	16.1	415,055.0

資料：欧州委員会「Agriculture, forestry and fishery statistics 2015 edition」

図1 農業生産額に占める畜産のシェア (2014年)



資料：欧州委員会「Eurostat」

## 2 畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

2014年のEU（加盟28カ国）の生乳出荷量は、1億4845万トンと全世界（約7億8899万トン：FAO）の約2割を占めている。これは、単一国としては世界最大となる米国の約1.6倍の量に相当する。EUは、牛乳・乳製品の自給率が114%と純輸出国であり、国際乳製品市場に大きな影響力を持っている。

2014年の世界の乳製品貿易量に占めるEUの割合は、チーズが40%（USDA）となり、ロシアが2014年8月から実施している農畜産物の禁輸措置などの影響により輸出量が減少に転じるも、引き続き主要輸出品となっている。また、同じくバターは15%、脱脂粉乳は輸出量が前年比59%増となったことにより前年から10ポイント増の33%となっている。

2014年は、EUの最大の乳製品輸出先であったロシアの8月からの禁輸措置の影響が大きく、生乳生産者価格および乳製品価格は下落傾向となった。

2014年の生乳出荷量は、生乳生産割当（クォータ）制度の廃止を見越した増産意欲の高まりもあり、前年比約4.6%増となった。これを受け、乳製品の生産量も、

バター（前年比4.8%増）、脱脂粉乳（同26.9%増）、チーズ（同1.0%増）といずれも増加した。また、域内消費量も、バター（同2.9%増）、脱脂粉乳（同8.0%増）、チーズ（同1.9%増）といずれも増加した。

#### ① 主要な政策

##### ア 生乳生産割当（クォータ）制度

EUは、国ごとに生乳生産割当枠（クォータ）を定め、クォータを超過した場合、100キログラム当たり27.83ユーロの課徴金が課せられる。また、加盟国間でのクォータの譲渡は認められていない一方、国内の農家間でクォータの売買、貸し借り、国による買い上げと再配分などができることとなっている。

なお、2008年11月に合意した「ヘルスチェック」（共通農業政策（CAP）の中間検証作業）に基づき、同制度は2015年3月末で廃止されている。

## イ 乳製品の介入買い入れ

EUは、バターおよび脱脂粉乳の介入買い入れを通じた乳製品の価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。介入価格は、2003年のCAP改革に基づき、バターは2004年以降4年間で25%、脱脂粉乳は同3年間で15%、それぞれ段階的に引き下げられたが、2008年9月以降さらに約3%引き下げられている。バターは、3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、CAP改革により、介入買入限度数量が新たに設定され、2004年に7万トン、その後毎年1万トンずつ削減し、2008年以降は、3万トンとなっている。買入限度数量に達した場合は、入札により買い入れが実施できることとなっている。

また、脱脂粉乳は、3月1日～9月30日の間、加盟国の介入機関が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）で一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が10万9000トンに達した場合、入札により買い入れが実施できることとなっている。

## ウ 民間在庫補助

2014年以降の新たなCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州

委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

## エ 輸出補助金

EUには、乳製品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、チーズ、バター、脱脂粉乳などの輸出に対して輸出補助金を交付する制度がある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに販売・輸送コストなどを勘案して設定される。なお、2010年以降は、全ての乳製品で輸出補助金の発動はない。

## オ 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳の学校給食用消費に対する補助などが行われている。

## ② 生乳の生産動向

### ア 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2010年の170万戸から13%減少し、148万戸となった(表2)。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
酪農経営体数	1,701.1	-	-	1,484.7	-	▲12.7
経産牛飼養頭数	23,107	22,868	23,012	23,468	23,559	0.0
1戸当たり経産牛飼養頭数	13.6	-	-	15.8	-	16.2

資料：欧州委員会「Eurostat」、AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

3：酪農経営体数および1戸当たり経産牛飼養頭数の増減率は、2010年から2013年の増減率。

## イ 飼養頭数

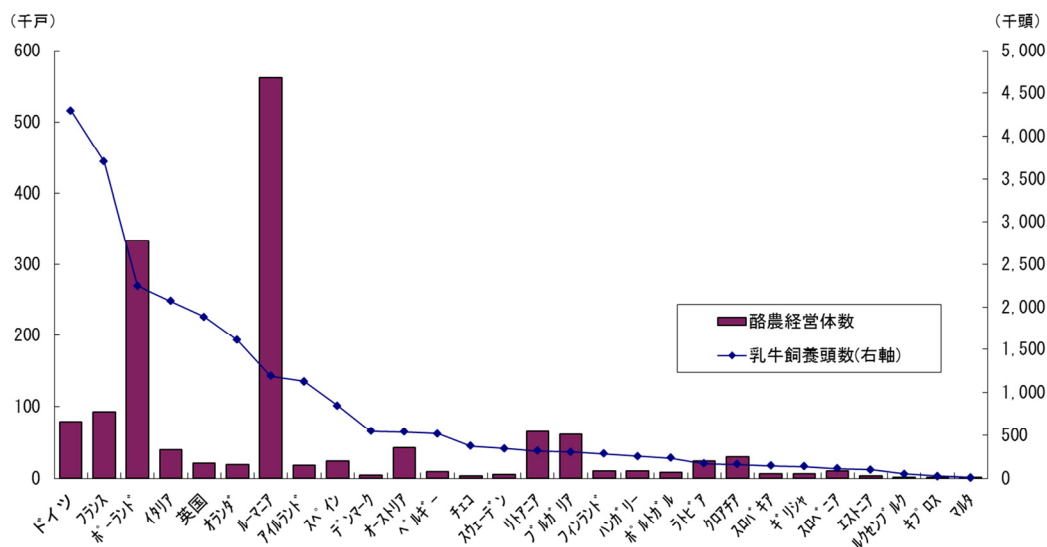
経産牛飼養頭数は、2015年3月末の生乳生産割当（クォータ）制度の廃止を見越して生乳生産に対する増産意欲が高まっていることなどから、2012年以降、増加傾向で推移しており、2014年も前年並みの2356

万頭となった。2014年を国別で見ると、頭数の多い順に、ドイツが430万頭、フランスが370万頭、ポーランドが225万頭、イタリアが207万頭、英国が188万頭、オランダが161万頭となり、これら6カ国でEU全体の約7割を占める(図2)。

2013年の1戸当たり経産牛飼養頭数は15.8頭で、2010年から16%増加した。国別では、経産牛飼養頭数が最も多いデンマークが149頭であるのに対し、ル

ーマニアは2.1頭、リトアニアは4.8頭であり、加盟国間の差が大きい。

図2 酪農経営体数（2013年）および乳牛飼養頭数（2014年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」、AMI「Market Review Dairy 2016」

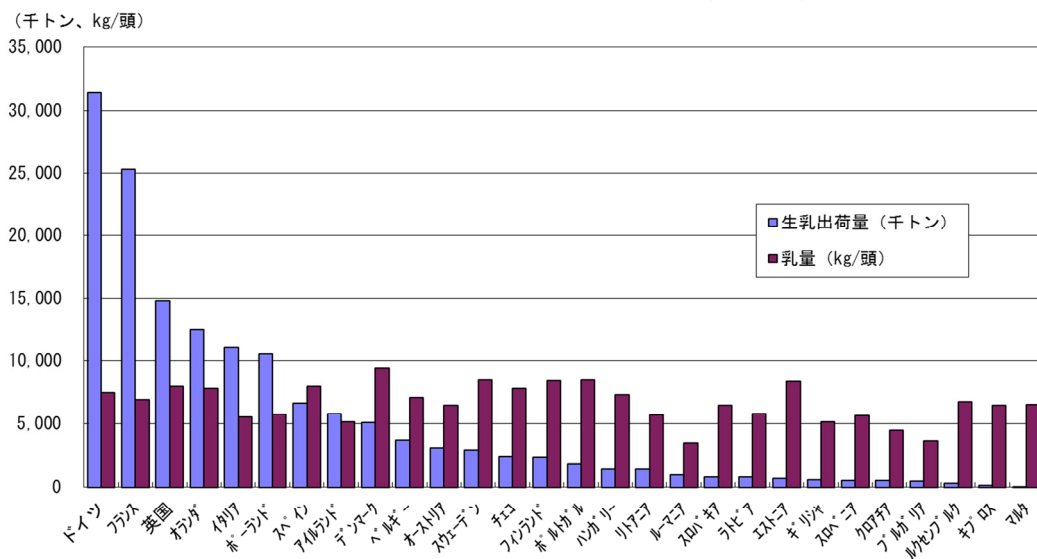
### ウ 経産牛1頭当たり乳量

2014年の経産牛1頭当たり乳量は、前年比3.4%増の6783キログラムとなった。ただし、加盟国間での差は大きく、第1位のデンマークの9437キログラム（前年比5.3%増）、第2位のポルトガルの8549キログラム（同6.8%増）に対し、下位にある東欧圏のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3656キログラム（同0.3%減）、3451キログラム（同1.7%増）となっている。

### エ 生乳出荷量

2014年の生乳出荷量は、1億4845万トンとなった。国別では、出荷量の多い順に、ドイツが3139万トン、フランスが2531万トン、英国が1480万トン、オランダが1247万トン、イタリアが1104万トン、ポーランドが1057万トンとなり、これら6カ国でEU全体の生産量の7割以上を占める（図3）。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量（2014年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

### ③ 牛乳・乳製品の需給動向

#### ア 飲用乳

2014年の飲用乳(乳飲料、ヨーグルトなどを含む)生産量(販売量)は3164万トンで、1人当たり年間飲用乳消費量は、平均で61.5キログラムと前年からわずかに減少した(表3)。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

国/年	(単位: kg/人、%)					増減率
	2010	2011	2012	2013	2014	
ベルギー	53.8	51.6	50.5	49.3	51.2	3.9
ブルガリア	21.5	20.5	20.2	20.7	20.7	0.0
チェコ	57.5	52.6	58.5	59.5	58.9	▲1.0
デンマーク	91.1	88.4	90.9	90.8	89.3	▲1.7
ドイツ	52.3	53.5	52.0	52.7	53.0	0.6
ギリシャ	69.7	69.1	-	-	-	-
エストニア	114.2	107.1	115.6	122.3	118.5	▲3.1
スペイン	84.1	84.0	83.2	83.6	79.8	▲4.5
フランス	55.6	55.8	54.2	54.4	52.6	▲3.3
アイルランド	132.8	123.2	121.2	120.4	120.1	▲0.2
イタリア	56.8	57.2	55.7	53.5	50.2	▲6.2
クロアチア	69.8	78.4	73.5	63.6	57.2	▲10.1
ラトビア	35.1	35.1	36.5	36.9	40.5	9.8
リトアニア	27.5	28.5	29.4	32.0	33.7	5.3
ハンガリー	51.1	48.6	50.6	50.5	48.3	▲4.4
オランダ	50.5	49.6	49.4	47.6	47.6	0.0
オーストリア	78.7	79.6	78.2	76.9	76.7	▲0.3
ポーランド	43.7	42.4	36.3	39.4	38.6	▲2.0
ポルトガル	80.8	80.3	81.0	78.7	78.4	▲0.4
ルーマニア	12.0	11.9	12.1	12.1	13.2	9.1
スロバキア	54.9	52.2	54.4	49.4	48.1	▲2.6
フィンランド	132.5	131.1	132.4	131.4	128.5	▲2.2
スウェーデン	97.3	91.8	91.9	92.3	86.0	▲6.8
英国	108.0	107.4	106.3	106.3	108.4	2.0
EU27カ国/ EU28カ国	65.4	62.8	62.4	62.3	61.5	▲1.3

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：2014年は暫定値。

2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

#### イ バター

EUは、インドに次ぐ世界第2位のバター生産地域であり、世界の生産量(2014年約963万トン：USDA)の約2割を占める。

2014年のバター生産量(バターオイルを含む)は、前年比4.8%増の219万トンとなった(表4)。これは、生乳生産量の増加に加え、輸出需要の高まりなどによる。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で4割以上を生産する(図4)。

2014年のEU域外輸出量は、前年比15.6%増の15万トンとなった。主な輸出先は、ロシアや米国、サウジアラビアなどである。一方、域外からの輸入量は5万トンであった。なお、ロシアは、EUなどからの農畜

産物の禁輸措置を2014年8月から実施している。

表4 バター需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
生産量	2,030	2,070	2,105	2,090	2,190	4.8
うち乳業工場	1,944	2,047	2,078	2,069	2,173	5.0
農家	86	23	27	21	17	▲19.0
輸入量	38	45	44	42	50	19.0
輸出量	156	126	127	128	148	15.6
在庫量(12月末)	50	80	110	100	120	20.0
域内消費量	1,997	1,959	1,992	2,014	2,072	2.9
1人当たり消費量(kg)	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	2.5

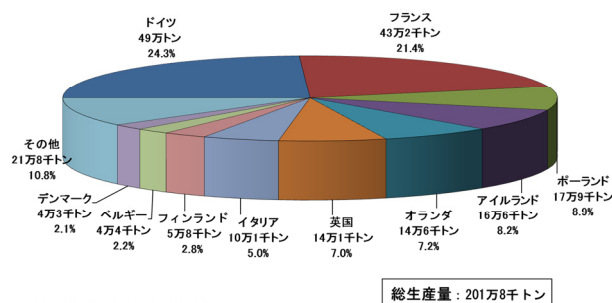
資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：生産量にはバターオイルを含む。

2：2014年は暫定値。

3：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

図4 バターの国別生産量(2014年)



資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：EU28カ国。

2014年のバター消費量は207万トンで、1人当たりでは、健康への関心の高まりにより90年代から減少傾向にあったが、マーガリンなど植物性油脂から乳脂肪への回帰などもあり2013年に増加に転じ、2014年は、前年比2.5%増の4.1キログラムとなった。国別では、2大生産国であるフランス(8.3キログラム)、ドイツ(5.7キログラム)での消費が多いが、オリーブ油など植物性油脂の消費が多いイタリア(2.3キログラム)などでは少なくなっている(表5)。



表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
ベルギー/ルクセンブルク	2.4	2.4	2.5	2.3	2.3	0.0
ブルガリア	0.7	0.7	0.8	0.9	0.9	0.0
チェコ	4.9	4.9	5.2	4.9	5.0	2.0
デンマーク	4.0	3.9	2.5	3.9	4.8	23.1
ドイツ	5.6	6.0	6.1	5.8	5.7	▲1.7
ギリシャ	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6	▲14.3
エストニア	4.3	4.1	2.5	1.5	2.2	46.7
スペイン	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.0
フランス	7.5	7.8	7.3	7.7	8.3	7.8
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.4	2.3	2.3	2.4	2.3	▲4.2
クロアチア	1.0	0.6	1.0	1.0	1.2	20.0
ラトビア	2.5	2.8	2.8	2.3	2.6	13.0
リトアニア	-	2.2	2.8	2.6	3.0	15.4
ハンガリー	1.0	0.9	1.0	1.0	1.2	20.0
オランダ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0
オーストリア	5.1	5.0	5.0	5.3	5.4	1.9
ポーランド	4.2	4.2	3.9	4.0	4.1	2.5
ポルトガル	1.7	1.8	1.8	1.7	1.9	11.8
ルーマニア	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.0
スロバキア	2.6	2.6	3.2	3.0	3.2	6.7
フィンランド	3.4	4.1	4.5	3.7	3.5	▲5.4
スウェーデン	1.6	2.6	3.0	2.2	2.3	4.5
英国	3.2	3.1	3.4	3.3	2.9	▲12.1
E U27カ国/ E U28カ国	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	2.5

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：2014年は暫定値。

2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

### ウ 脱脂粉乳

EUは、世界最大の脱脂粉乳生産地域であり、世界の生産量（2014年約451万トン：USDA）の3割以上を占める。

2014年の脱脂粉乳生産量は、堅調な輸出需要を反映し、前年比26.9%増の155万トンと増加した（表6）。消費量は、前年比8.0%増の89万トンであった。主な生産国は、フランスとドイツであり、2カ国で5割以上を生産する（図5）。

2014年のEU域外輸出量は、前年比59.2%増の65万トンと大きく増加した。主な輸出先は、地理的に近いアルジェリア、エジプト、ナイジェリアなどのアフリカ諸国、また、インドネシアやタイなどの東南アジアであるが、中国向けも前年から増加傾向にある。

表6 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン、%)

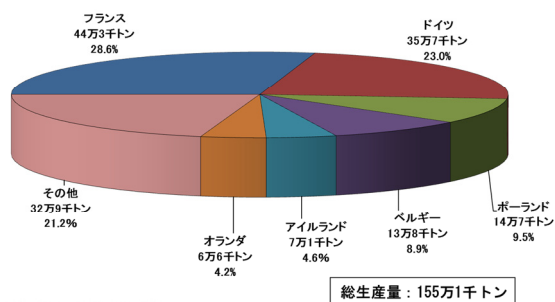
区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
生産量	1,217	1,217	1,227	1,222	1,551	26.9
輸入量	4	0	2	5	2	▲60.0
輸出量	379	518	524	407	648	59.2
介入在庫量(12月末)	195	50	0	0	0	-
域内消費量	842	807	800	821	887	8.0

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：2014年は暫定値。

2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

図5 脱脂粉乳の国別生産量（2014年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：EU28カ国。

### エ チーズ

EUは、世界最大のチーズ生産地域であり、世界の生産量（2014年約1851万トン：USDA）の過半以上を占める。

2014年のチーズ生産量は、東欧諸国の消費拡大により域内需要が堅調に推移しており、ロシアが2014年8月から実施している農畜産物の禁輸措置などの影響があるものの、前年比1.0%増の968万トンとなった（表7）。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で4割以上を生産する（図6）。

表7 チーズ需給の推移

(単位：千トン、%)

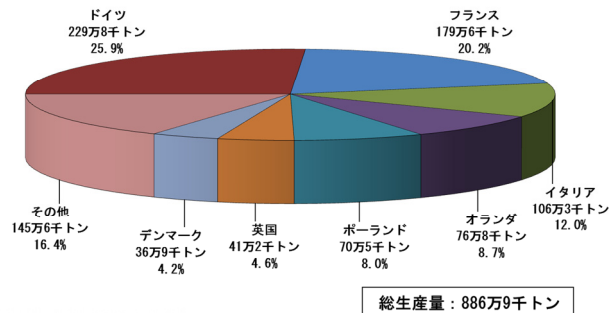
区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
生産量	9,282	9,193	9,409	9,584	9,678	1.0
うち乳業工場(生乳原料)	8,328	8,408	8,576	8,772	8,869	1.1
農家(生乳原料)	110	105	105	105	105	0.0
その他(生乳原料)	650	680	728	707	704	▲0.4
輸入量	84	73	76	75	77	2.7
輸出量	578	682	778	788	721	▲8.5
域内消費量	8,844	8,824	8,941	9,116	9,288	1.9
1人当たり消費量(kg)	17.8	17.6	17.9	18.0	18.3	1.7

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：2014年は暫定値。

2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

図6 チーズの国別生産量（2014年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

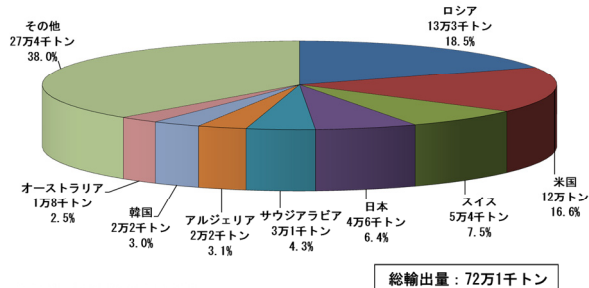
注1：EU28カ国。

2：生産量のうち乳業工場生産分。

2014年のEU域外輸出量は、前年比8.5%減の72万トンとなった。主な輸出先は、輸出量の多い順に、

ロシア（13万トン）、米国（12万トン）、スイス（5万トン）、日本（4.6万トン）となっている（図7）。ロシア向けは、8月からの禁輸措置により前年比約50%減となっている。

図7 チーズの輸出先国（2014年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：EU28カ国。

2014年のチーズ消費量は929万トンで、1人当たりでは18.3キログラムであった。1人当たりの消費量は加盟国間でかなりの差があり、フランス（26.7キログラム）、フィンランド（25.6キログラム）、ドイツ（24.2キログラム）などが多い一方、スペイン（9.5キログラム）、ルーマニア（4.9キログラム）、などは少ない（表8）。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

（単位：kg/人、%）

国/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
ベルギー	16.0	15.3	15.3	15.0	15.1	0.7
ブルガリア	15.6	15.5	15.9	16.4	16.4	0.0
チェコ	16.5	16.2	16.6	16.0	16.3	1.9
ドイツ	22.9	23.7	23.7	23.7	24.2	2.1
ギリシャ	25.5	24.0	22.9	22.3	22.2	▲0.4
エストニア	19.6	20.8	21.0	21.3	21.5	0.9
スペイン	9.4	9.5	9.3	9.5	9.5	0.0
フランス	26.6	26.1	26.1	26.2	26.7	1.9
アイルランド	9.3	10.0	10.7	11.0	11.5	4.5
イタリア	21.1	22.3	21.4	20.5	20.1	▲2.0
クロアチア	8.7	7.7	9.6	10.2	11.2	9.8
ラトビア	14.4	14.3	16.0	16.9	16.6	▲1.8
リトアニア	13.9	16.1	17.5	20.1	18.6	▲7.5
ハンガリー	11.5	11.0	11.5	11.0	11.6	5.5
オランダ	18.7	19.2	21.3	20.1	20.1	0.0
オーストリア	19.4	19.9	20.5	20.0	21.6	8.0
ポーランド	11.3	11.4	15.6	15.6	16.0	2.6
ポルトガル	9.5	9.6	9.6	9.7	10.3	6.2
ルーマニア	4.1	4.2	4.4	4.6	4.9	6.5
スロベニア	13.9	13.9	14.1	14.1	14.4	2.1
スロバキア	10.0	10.3	10.1	11.4	11.7	2.6
フィンランド	21.4	22.5	23.7	24.7	25.6	3.6
スウェーデン	18.9	19.0	19.7	19.8	20.8	5.1
英国	11.3	11.0	11.4	11.6	11.7	0.9
EU27カ国/ EU28カ国	17.8	17.6	17.9	18.0	18.3	1.7

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：2014年は暫定値。

注2：2010年から2012年まではEU27カ国。2013年、2014年はEU28カ国。

## ④ 生乳および牛乳・乳製品の価格動向

### ア 生乳生産者価格

生乳生産者価格は、2007年後半以降の旺盛な国際乳製品需要を受けて急騰したが、2008年9月以降、いわゆるリーマンショックに端を発した景気後退を背景に需要が大きく落ち込んだことで急落した。その後、国際需要の高まりにより回復傾向にあり、2014年は前年をわずかに上回る100キログラム当たり36.55ユーロとなった（表9）。

表9 生乳生産者価格

（単位：ユーロ/100kg、%）

国/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
ベルギー	30.47	33.11	30.19	37.22	36.00	▲3.3
ブルガリア	27.62	32.66	30.54	33.67	34.58	2.7
チェコ	28.54	32.63	29.64	31.80	33.04	3.9
デンマーク	31.94	35.67	34.04	38.63	39.67	2.7
ドイツ	30.83	34.83	31.99	37.51	37.58	0.2
エストニア	27.74	32.26	30.04	33.81	32.70	▲3.3
ギリシャ	37.30	43.16	45.08	44.42	43.18	▲2.8
スペイン	29.38	31.29	30.89	34.31	35.18	2.5
フランス	29.17	31.71	30.56	33.40	35.48	6.2
アイルランド	30.83	34.33	32.29	38.31	37.82	▲1.3
イタリア	34.11	38.43	37.31	40.83	41.92	2.7
クロアチア	-	34.12	33.05	34.46	35.81	3.9
キプロス	51.26	52.07	52.69	57.52	56.50	▲1.8
ラトビア	25.11	29.35	27.63	30.57	29.25	▲4.3
リトアニア	21.69	24.90	22.91	27.40	24.85	▲9.3
ハンガリー	26.20	31.34	30.43	33.47	34.39	2.7
オランダ	31.41	35.65	32.87	39.68	39.97	0.7
オーストリア	30.33	34.03	32.49	36.13	38.09	5.4
ポーランド	25.71	28.51	27.83	30.85	31.63	2.5
ポルトガル	28.98	31.42	32.00	34.78	35.26	1.4
ルーマニア	21.56	24.78	24.08	26.38	27.29	3.4
スロベニア	26.85	30.47	30.14	32.30	34.67	7.3
スロバキア	27.51	31.64	29.63	32.79	33.65	2.6
フィンランド	39.41	42.63	44.91	45.90	46.93	2.2
スウェーデン	33.68	37.87	35.76	39.60	38.64	▲2.4
英国	27.90	30.64	33.63	36.19	37.91	4.8
EU27カ国	29.90	33.20	32.00	35.90	36.55	1.8

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注1：3.7%脂肪分のもの。

ただし、フランスは3.8%、ドイツの2010年以降は4.0%脂肪分のもの。

注2：EU27カ国はクロアチアを含まない。

### イ 飲用乳小売価格

2014年の飲用乳の小売価格は、前年をかなり上回って推移した。一例として、ドイツを見ると、全脂乳（乳脂肪3.5%以上）の小売価格は、1リットル当たり1.09ユーロ（前年比6.9%高）であった（表10）。

表 10 ドイツの飲用生乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
全脂乳 (乳脂肪1.6%~3.5%)	0.61	0.63	0.60	0.70	0.74	5.7
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	0.89	0.93	0.95	1.02	1.09	6.9
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.52	0.55	0.52	0.62	0.68	9.7

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

## ウ バター卸売価格

2014年のバター卸売価格(工場渡しまたは倉庫渡し)は、ロシアの禁輸措置などの影響を受け、主要国で軒並み前年を下回った(表11)。

表 11 主要国のバター卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
フランス	3.34	3.96	3.07	4.00	3.37	▲15.8
ドイツ	3.46	3.97	3.06	3.95	3.36	▲14.9
オランダ	3.46	3.94	3.02	3.91	3.31	▲15.3
英国	3.63	4.04	3.14	3.99	3.37	▲15.5
イタリア	3.34	3.81	2.94	3.83	3.39	▲11.5
ベルギー	3.38	3.91	3.07	3.97	3.34	▲15.9

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：工場渡しまたは倉庫渡しの価格で付加価値税は含まない。

## エ 脱脂粉乳卸売価格

2014年の脱脂粉乳卸売価格(工場渡し)は、バター同様に主要国で軒並み前年を下回った(表12)。

表 12 主要国の脱脂粉乳卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
ドイツ	1.99	2.17	2.20	2.91	2.38	▲18.2
フランス	2.18	2.44	2.37	3.05	2.63	▲13.8
オランダ	2.17	2.39	2.33	3.03	2.58	▲14.9
ベルギー	2.21	2.45	2.41	3.11	2.69	▲13.5

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

## オ チーズ卸売価格

2014年のチーズ卸売価格(工場渡し)は、バターおよび脱脂粉乳同様に前年を下回るものが多かった(表13)。

表 13 主要国のチーズ卸売価格

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
ドイツ エメンタール45%	4.80	5.01	4.96	5.33	5.56	4.3
英国 チェダー	3.26	3.42	3.61	3.90	3.78	▲3.1
ベルギー チェダー	3.10	3.44	3.19	3.74	3.49	▲6.7
イタリア グラナ・パダーノ	7.22	8.84	8.82	8.29	7.79	▲6.0
ポーランド エメンタール	3.31	3.44	3.36	3.72	3.92	5.4

資料：AMI「Market Review Dairy 2016」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

## (2) 肉牛・牛肉産業

2014年のEU(加盟28カ国)の牛肉生産量は、755万トンと世界の生産量(約6807万トン:FAO)の約1割を占めている。

EUは気候・地理・歴史的条件に応じて、多種多様な品種の牛(肉用種、乳用種、乳肉兼用種)が飼養されており、牛肉の生産構造や生産する牛の種類(子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など)は、国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率は、2001年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、2003年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も2013年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などによる消費者離れなどがあったが、BSE管理の徹底やユーロ安などに支えられ、輸出量を増加させるなどして、2010年以降、自給率は100%前後で横ばいに推移している。

EUは、酪農が盛んな地域であり、全体のと畜頭数のうち約3分の2が乳用種となっている。そのため、酪農部門の拡大や縮小といった動向がEUの牛肉生産量に大きな影響を与える。そのような中、2015年3月末の生乳生産割当(クォータ)制度の廃止を見越した酪農部門の規模拡大の動きがあり、2014年の牛肉生産量は前年比2.2%増となった。

## ① 主な政策

## ア 介入買い入れ

EUは、域内の牛肉価格が下落した場合、加盟国の介入機関を通じて、一定基準を満たすものを買い入れ、市場から隔離することにより、価格支持を行っている。具体的には、枝肉のEU平均市場価格が2週間にわたって1トン当たり1560ユーロを下回る場合、介入買い入れが行われる。

## イ 民間在庫補助

EU市場で、R3(形態および脂肪のそれぞれについて中間に位置する。)に格付けされた雄牛の枝肉基本価格を100キログラム当たり222.4ユーロと定め、EU平均市場価格が枝肉基本価格の103%を下回り、そ



れが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

### ウ 直接支払い

2000年からの介入価格の引き下げにより減少した農業所得を補償するため、繁殖雌牛奨励金などの奨励金について、単価が引き上げられたほか、2000年には新たに畜奨励金が新設された。

しがしながら、これらの生産にリンクした直接支払いは、2003年のCAP改革により、原則、廃止された。ただし、加盟国は、生産維持を目的に生産と結びついた直接支払いについても実施することが可能となっている。

### エ 輸出補助金

EU産牛肉の国際競争力を維持し、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定される。

### オ BSE関連対策

動物性たんぱく質の飼料利用の全面禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などのBSE対策、講じられる対策の有効性を検証するための30カ月齢超の食用向けの健康な牛に対するBSEモニタリング検査などが実施されている。2009年1月1日より、検査月齢を30カ月齢超から48カ月齢超に変更することが可能となった。また、2011年7月より、ブルガリアおよびルーマニアを除く25カ国で、検査月齢が48カ月齢超から72カ月齢超に変更された。

## ② 肉牛の生産動向

### ア 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年には2010年の262万戸から13%減少し、228万戸となった(表14)。

牛飼養経営体数は、2013年のEU全農業経営体数(1084万戸)の約2割を占めていることから、EU全農業経営体の約5分の1は何らかの形で牛を飼養していることになる。牛飼養経営体数の多い国は、ルーマニア(64万戸)、ポーランド(42万戸)、フランス(18万戸)、ドイツ(13万戸)、アイルランド(11万戸)、イタリア(11万戸)である。

表14 牛(乳牛を含む)飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
牛飼養経営体数	2,621	—	—	2,279	—	▲13.1
飼養頭数	87,831	87,054	87,297	87,734	88,406	0.8
1戸当たり飼養頭数	33.5	—	—	38.5	—	14.9

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

2：EU28カ国のデータ。

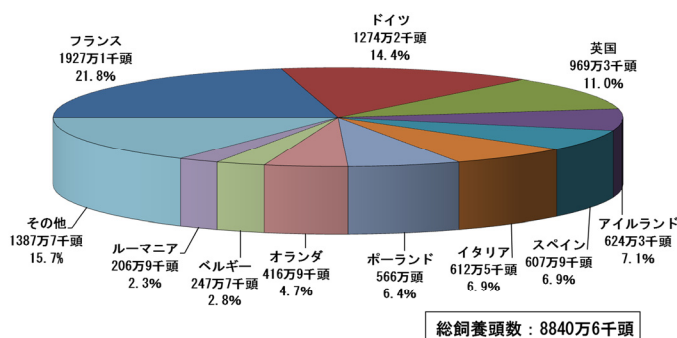
3：牛飼養経営体数および1戸当たり飼養頭数の増減率は、2010年から2013年の増減率。

### イ 飼養頭数

2014年12月時点の牛飼養頭数(乳牛を含む)は、前年比0.8%増の8841万頭であった(表14)。飼養頭数が多いのは、フランスの1927万頭、ドイツの1274万頭、英国の969万頭と続き、この上位3カ国でほぼ半数を占める(図8)。

2013年の1戸当たり牛飼養頭数は38.5頭で、2010年の33.5頭から15%増加した。飼養頭数や種類別の牛飼養割合など加盟国間で違いがある(図9)。

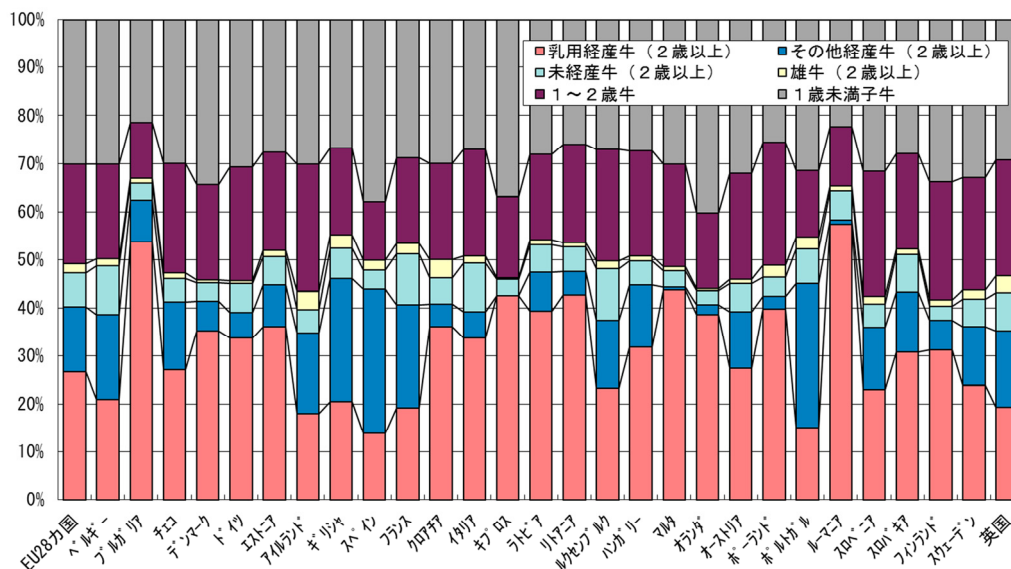
図8 国別牛飼養頭数(2014年12月)



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU28カ国。

図9 国別種類別牛飼養割合（2014年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

### ③ 牛肉の需給動向

#### ア 牛肉生産量

2014年の牛肉生産量は、酪農部門の規模拡大などの影響により前年比2.2%減の755万トン(枝肉換算)となった(表15)。

表15 牛肉需給の推移

区分/年	(単位：千トン、%)					増減率
	2010	2011	2012	2013	2014	
生産量	8,113	8,044	7,703	7,388	7,549	2.2
輸入量	321	286	275	304	308	1.4
輸出量	253	327	209	160	206	28.3
消費量	8,181	8,003	7,769	7,531	7,651	1.6
1人当たり消費量 (kg)	11.4	11.1	10.7	10.4	10.5	1.3
自給率 (%)	100.4	102.3	101.2	99.5	100.2	0.6

資料：欧州委員会「Short Term Outlook for EU arable crops, dairy and meat markets - Summer 2016」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：輸入量および輸出量は生体牛を除く。

#### イ 輸入および輸出

基本的にEUの牛肉市場は需給均衡型であり、フランスやドイツなどの主要国で生産された牛肉が域内消費に向けられ、余剰分を域外に輸出するという構造である。

輸入については、ガット・ウルグアイラウンド合意に基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設けられている。2014年のEU域外からの輸入量は前年比1.4%減の31万トン(枝肉換算)となった。

主な輸入先は、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出量は、2001年のBSE問題の再燃や2002年2月の口蹄疫(FMD)の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで減少傾向となっていた。2012年以降、減少傾向となっていたが、2014年はロシアに代わる新たな市場開拓や主要通貨に対してユーロ安で推移する為替相場なども影響して、21万トン(枝肉換算、前年比28.3%増)と前年から大幅に増加した。

#### ウ 消費

消費量は、域内生産量の減少による価格の上昇などから、2008年以降、減少傾向で推移していたが、2014年は前年比1.6%増の765万トンとなった。

1人当たり年間消費量は、緩やかな減少傾向で推移していたが、2014年は前年比1.3%増の10.5キログラムとなった。

## ④ 肉牛・牛肉の価格動向

### ア 枝肉卸売価格

2014年の枝肉卸売価格は、域内生産量の増加などにより、雄牛で前年比2.6%安、去勢牛で同5.7%安となった(表16)。

表16 牛枝肉卸売価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

年/区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
	価格	変動率	価格	変動率
2010	319.8	1.1	311.1	0.8
2011	350.7	9.7	352.3	13.3
2012	381.6	8.8	408.3	15.9
2013	377.9	▲1.0	437.0	7.0
2014	368.1	▲2.6	411.9	▲5.7

資料：欧州委員会「CIRCABC」

## (3) 養豚・豚肉産業

2014年のEU(加盟28カ国)の豚肉生産量は、2253万トンと世界の生産量(約1億1727万トン：FAO)の約2割を占めている。

EUの豚肉自給率は110%前後で推移しており、純輸出地域である。中でも、わが国の主要な豚肉輸入元であるデンマークは、EU全体の輸出量の約2割を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、食肉消費量に占める割合は豚肉が最も大きい。

EUの豚肉生産は、2007年、2012年の飼料価格の高騰などの影響を受け、増産と減産を繰り返している。2014年は前年に完全施行されたアニマルウェルフェアに関する規制強化があったが、前年から微増となった。同規制強化により、対応不能な小規模農家の経営中止や、繁殖、肥育の分業化、統廃合など、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。このため、規制強化の過渡期の2012年～13年には一時的に生産減少の要因となったが、その後は、生産構造の変化により生産性向上が図られたことで、増産につながっている。

### ① 主な政策

#### ア 民間在庫補助

EUは、域内の豚肉価格が低迷した場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費

の補助が行われる。2011年は、1月にドイツで豚用飼料へのダイオキシン混入が発覚したことを受け、同年2月1日から22日まで民間在庫補助が発動した。この結果、ドイツ(約4万1000トン)、スペイン(約2万8000トン)、オランダ(約1万4000トン)などEU全体で14万トン強の在庫が市場から隔離された。

2012年から2014年までは価格が堅調に推移したことから、民間在庫補助の発動はなかった。

#### イ 輸出補助金

EUは、EU産豚肉および加工品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定する。なお、2008年8月以降の発動はない。

## ② 肉豚の生産動向

### ア 養豚経営体数

EUの養豚経営体数は、景気の低迷、飼料価格の高騰、アニマルウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化が進む傾向にあり、2010年の288万戸から24%減少し、219万戸となった(表17)。

養豚経営体数は、2013年のEU全農業経営体数(1084万戸)の約2割を占めていることから、EU全農業経営体の約5分の1は何らかの形で豚を飼養していることになる。養豚経営体数の多い国は、ルーマニア(128万戸)、ポーランド(28万戸)、ハンガリー(13万戸)、クロアチア(8万戸)、リトアニア(6万戸)、スペイン(5万戸)である。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭、%)

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
養豚経営体数	2,883	—	—	2,191	—	▲24.0
飼養頭数	152,361	149,809	146,955	146,242	148,330	1.4
1戸当たり飼養頭数	52.9	—	—	66.7	—	26.3

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

2：EU28カ国のデータ。

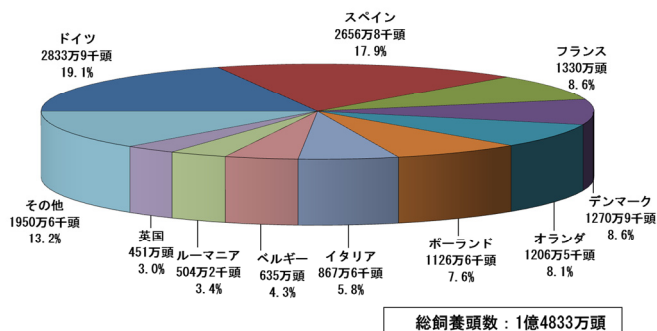
3：養豚経営体数および1戸当たり飼養頭数の増減率は、2010年から2013年の増減率。

## イ 飼養頭数

2014年12月時点の豚飼養頭数は、1億4833万頭（前年比1.4%増）となった（表17）。

飼養頭数はEU全土に分散しているものの加盟国間で大きな差があり、ドイツ、スペイン、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランドの6カ国でEU全体の約7割を占めている（図10）。中でも、スペインは前年比4.2%増と伸び率が特出している。

図10 国別豚飼養頭数（2014年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU28カ国。

## ③ 豚肉の需給動向

### ア 豚肉生産量

2014年の豚肉生産量は豚枝肉卸売価格の低迷の影響などにより増加幅は小さく、前年比0.8%増の2253万トン（枝肉換算）となった（表18）。

表18 豚肉需給の推移

（単位：千トン、%）

区分/年	2010	2011	2012	2013	2014	増減率
生産量	22,686	22,993	22,519	22,359	22,534	0.8
輸入量	29	18	19	15	13	▲14.3
輸出量	1,815	2,151	2,151	2,198	1,909	▲13.1
消費量	20,900	20,860	20,387	20,177	20,638	2.3
1人当たり消費量 (kg)	32.3	32.2	31.4	31.0	31.7	2.0
自給率 (%)	108.9	110.5	110.6	110.9	109.4	▲1.4

資料：欧州委員会「Short term outlook for EU arable crops, dairy and meat markets - Summer 2016」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

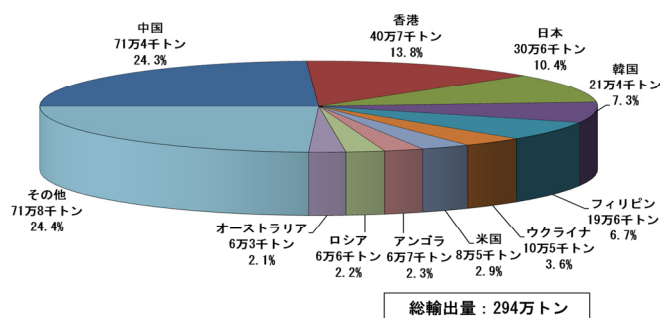
注2：生産量は加工に伴う損耗を考慮した数値。

### イ 輸入および輸出

2014年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、1.3万トン（前年比14.3%減）となった。

同年のEU域外への輸出量（同）はかなり減少し、前年比13.1%減の191万トンとなった。減少の要因は、EUの輸出量の4分の1を占め最大の輸出先であったロシアが2014年2月から実施しているEU産豚肉の禁輸措置などによる。なお、日本向けはスペインからの輸出が増加し、前年比32%増となった。（図11）。

図11 豚肉の輸出先国（2014年）



資料：デンマーク農業理事会「STATISTICS 2015 Pigmeat」

注1：EU28カ国。

注2：製品重量ベース。

注3：生体、内臓肉、調製品などを含む。

### ウ 消費

消費量は、近年横ばいで推移しており、2014年は前年比2.3%増の2064万トンとなった。

1人当たり年間消費量は、緩やかに減少傾向が続いていたが、2014年は前年比2.0%増の31.7キログラムとなった。

## ④ 豚肉の価格動向（豚肉の市場価格）

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均価格をベースとして算出される。

2014年の枝肉卸売価格は、域内生産量が堅調に推移する中、ロシアの禁輸措置の影響などを大きく受け、前年比10.8%安となった（表19）。主要生産国であるドイツ、デンマークでもそれぞれ同8.8%安、同8.4%安となっている。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
	価格	変動率	価格	変動率	価格	変動率
2010	140.3	▲2.1	143.6	▲1.8	126.2	2.1
2011	153.2	9.2	155.7	8.4	138.9	10.1
2012	170.5	11.3	173.8	11.6	157.4	13.3
2013	175.5	2.9	174.0	0.1	159.5	1.3
2014	156.6	▲10.8	158.7	▲8.8	146.2	▲8.4

資料：欧州委員会「CIRCABC」